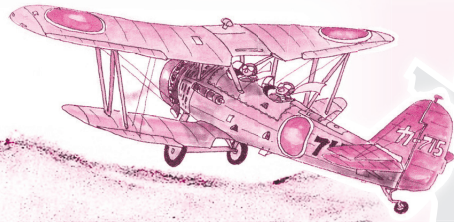


予科練 平和記念館だより



予科練平和記念館整備推進室では、予科練や海軍に関するお話や写真を集めています。ご存じの方はぜひご一報ください。

気づけば身の回りに暖かな色合いのものが増えました。栗や柿、さつまいも、梨など、秋の味覚を手にとつてながめたり、香りを楽しんで、口いっぱいにはおぼつて実りの季節の喜びを全身で感じる今日のごろ、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

今月号は、8月に開催した夏季特別展の模様をお伝えします。

●夏季特別展「予科練展Ⅲ 昭和の記憶」

8月2日(土)から17日(日)まで、図書館2階視聴覚室およびギャラリーにおいて、夏季特別展『予科練展Ⅲ 昭和の記憶』を開催しました。今年で3回目のこの特別展は、予科練平和記念館建設のプレイベントとして、これまでに収集した資料を皆さんにご覧いただく目的で行ないました。平成18年の『予科練展』では、阿見町に縁深い『予科練』とはどのようなものだったのかを、予科練習生たちが実際に使っていた物や当時の写真、模型などを中心に紹介しました。平成19年は『予科練展Ⅱ 手紙—予科練から、戦場から—』というタイトルで、予科練習生が家族にあてた手紙や日記を中心にし

て、彼らの「心」や「想い」に光を当てました。3回目の今年は、『予科練展Ⅲ 昭和の記憶』と題して、これまで紹介しきれなかった予科練以外の寄贈資料の中から、生活に使われたものや陸・海軍の資料を中心に展示し、激動の昭和初期の様子を感じていただくことで、予科練への認識を深めてもらおうと企画したものです。3年間で約5231人も多くの人がご来場いただき、たくさんの励ましのお言葉やアドバイスを、体験談などをうかがうことができました。ありがとうございます。



▲会場内の様子

また、毎年絵を出展していただき、お客さまに大好評だったポストカードをご提供いただきました。飛行機絵師の中島健さん(牛久市在住)にも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

去年に引き続き、今年も会場準備や受付、案内などに11人のボランティアの皆さんが活躍されました。真夏の暑い中重い荷物を運んだり、笑顔でお客さまを迎えたり、時には話し相手になって特別展を盛り上げてくださった人たちの支えがあったからこそ、無事に開催できたと言っても過言ではありません。心より感謝申し上げます。

この3年間で皆さんにご覧

来場した皆さんから いただいたアンケートより

体験談を聞いて、戦争のおそろしさがわかりました(小学生・男子)

戦後63年たった今、これからの若者たちにこの戦争の悲惨さを伝えたいと思いました。ほくにも、何かこういふこと手伝えることがあったらぜひ協力したいです(中学生・男子)

近くに戦争の時の話をしてくれる人がなかなかいなく、テレビなどでしか知る機会がなくなっていました。今回『昭和の記憶』展を見て、映像では感じることのできない苦しさや生活などを知る事ができました。しかも一番知るべきである地元阿見のことを知れてとても良かったです。私のような子供が(小学生)

いただいた資料は、これから詳しいデータをとったり保存処理をしたりして、予科練平和記念館での展示、保管準備にはいります。開館後は展示ケースの中から皆さんをお迎えすることになると思います。見かけたときには「あ、あのとき展示されていたものだ」と思い出していただければ幸いです。記念館の中で資料がどのように展示されていくのか、どうぞお楽しみに。

るべき、そして忘れてはならないことですね(高校生・女子)

子供といっしょに見にきました。慰問文の所で足がとまりその字を見ておどろきました。今の子供達と同じような字を書くのだと・・・でも生きている時と場所によってこんなにも違いすぎることに胸が痛くなりました。子供よりも私の方が考えさせられる時間でした(40代・女性)

戦争の是非は別として、国を護るために若い人が任務に殉じた純粋な精神は後世にも語り継がれるべきものと感じた(60代・男性)

平和な生活をしている現在、幸せだとも思います。戦中をくぐり抜けて来たこと、今80を越えて健康で暮らしていることに感謝をして居ります(80代・元土浦海軍航空隊の看護婦さん)